

ダイオキシン Dioxin

ダイオキシンは現在すべて物の焼却の過程（ごみ焼却、自動車排気ガス、たばこの煙等）で自然に生成する猛毒物質（青酸カリより強い）で、PCDD(ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン)、PCDF(ポリ塩化ジベンゾフラン)、コプラナーPCB(ポリ塩化ビフェニル)の三種がある。塩素の付く位置が PCDD には9種、PCDF には135種、コプラナーPCB には十数種があり、うち29種に毒性がある。最も毒性の強いものは、2,3,7,8-テトラクロロジベンゾーパラージオキシン(2,3,7,8-TCDD)である。一方、ダイオキシン類は、無色の固体で、蒸発せず、油溶性（水に溶けない）で食物を通して人体内に長年蓄積されると健康に悪影響がある。動物実験によれば、生殖・甲状腺・免疫機能に影響し、環境ホルモン作用、発ガン性もあるといわれる。耐容1日摂取量（TDI）は4 pg/kg たいじゅう/日とされる。

（石上）